

豊田民報

日本共産党豊田市委員会
◆豊田市日之出町一六六
Tel: 三四・四七二
毎週一回発行

トヨタと地域社会の将来を考える 住みよい豊田を創る会

革新市政をめざす「住みよい豊田を創る会」が9月29日、今年度の総会と講演会を開きました。講演会では、大木一訓・日本福祉大学名誉教授が「変貌する自動車産業の動向と地域経済の課題」と題して講演。(左写真)

トヨタは高収益で経営危機？

トヨタ自動車は今年3月期の連結決算で過去最高益を更新。依



混乱する経営戦略

トヨタは、アメリカ対応を重視しています。そのアメリカ道案内役として経営者ギル・プラット氏を招へい。ギル氏の意見により、これまでの4系列販売会社それぞれで扱っていた車種を、販売店は全車種扱えるよう変更。

限界があらわになった水素自動車への固執。省エネ・環境効果でEVより劣り、水素供給体制も不備。日産などは撤退。がむしゃらな「真水」(コストダウンによる増益)の追求。

無謀な「働き方改革」

トヨタは高プロ制度が通る前から、脱法的な「働き方改革」FTL(フリータイム&ロケーション イノベーション)を推進してきました。「賃金は掛けられた時間の対価であるという考え方を払拭」して一定額を支給。

賃上げの内容も公開しない
労使団体の労働組合。

住民運動への期待

大企業に対する社会的規制、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」や地域条例の活用。

名鉄バス廃止路線 おいでんバスが走る

名鉄バスの東山住宅線、久平線が9月末で廃止され、10月1日から代替路線で、豊田市のおいでんバスの運行が始まっています。当初の計画では、この名鉄バス路線は今年の4月に廃止となる計画でしたが、廃止は半年延期され、廃止と同時期に、おいでんバスの路線で運行することになった経緯があります。

東山住宅線の沿線の京ヶ峰、初吹地域の方から「バスが無くなると病院に行けない。本当に困る。」「運転免許証を返したばかりで、これからバスを利用するはずだった。」など切実な意見があり、地域の住民の方と署名に取り



新設された高橋支所前バス停で



組んだ根本みはる市議は、市の交通政策課に意見を届け、廃止の延期と、おいでんバスでの代替路線を要望してきました。

敬老バス、公共交通 拡充は市民の声

「敬老バスで出かけたかった。」「運転免許証を返納したら、タクシー券を使えるようにして欲しい。」「公共交通が不便」など市民からの意見は多く「公共交通は社会資本」と位置付けた豊田市では、さらに施策の拡充が求められます。



9月議会の
質疑報告

小規模事業者の約7割は赤字
大企業に「超過課税」を！

トヨタが「過去最高益を更新」と報道される中で、平成29年度の豊田市財政決算は、法人市民税が逆に170億円余減少しました。

日本共産党市の大村よしのり市議は、「なぜ、このような減少になるのか、その原因は何か」と質問しました。市は、法人税割のしくみから言っても正確には分からないと答えました。

考えられる事は、表向きの税率には現れない、大企業優遇税制による実際の税負担率の低下だと思われれます。特に、リーマンショックの期間に税金がかからないように制度化された「海外子会社配当益金不算入」の措置が大きいと思われれます。それは、トヨタが発表した決算において、税引き後の純利益のほうに営業利益よりも多いことを見れば端的です。

海外展開を広げる多国籍大企業が利益を拡大しながら様々な税法上の軽減措置を受ける一方で、数では市内の事業者の多数を占める1号法人、小規模事業者の圧倒的な

部分は法人税割の税金を納められていません。つまり、赤字です。

答弁によれば、5806の1号法人のうち、3847事業所は法人税割が納められておらず、それは66%を占めています。アベノミクスは大企業を潤しても、それがピラミッドの底辺にはトリクルダウンしない事を税収の実態で

9月議会の
質疑報告

核ゴミ処分場選定の危険性
原発関係交付金の返納を！

日本共産党の大村市議は、原発関係の電源立地地域対策交付金について質問しました。答弁によれば、平成29年度の決算額は2360万円余。平成14年度から交付金を受けているものであり、29年度決算までの総額は、4億3187万円にもなる事が

質疑で確認されました。この交付金は、豊田市に隣接する岐阜県瑞浪市にある超深地層研究所に係る交付金です。この研究所は、使用済み核燃料を地下深くに埋める地

示したものです。そのような中、豊田市として企業誘致推進補助金で大企業に3億3900万円余が支払われた事が決算質疑で明らかにになりました。しかし、多額の補助金を大企業に出しても、その大企業からの法人市民税は減るばかりではありませんか。

むしろ、多くの中核市が行っているように、標準税率を超過して大企業に対して超過課税を行うべきだと、日本共産党市議団として意見を述べました。

層処分場の研究所であり、核のゴミの最終処分場選定における危険性をもったものであるという点を深刻に受け止め、交付金は全額返納すべきです。

全国的には、放射性廃棄物の持ち込みを規制する条例を制定した自治体が、すでに22自治体あり、豊田市として、このような条例制定を検討すべきであるという意見を、日本共産党市議団として述べました。

沖縄県知事選挙勝利
選挙活動の応援レポート

豊田市から沖縄県知事選挙の応援に参加した「新日本婦人の会」の肌附さんからレポートを寄せてもらいました。

安倍政権の圧力にも屈せず闘ってきた翁長知事が8月に急逝され、9月30日投票で沖縄県知事選挙が行われました。

立ではなく対話」と強調していましたが、辺野古についてはダンマリでした。企業や銀行などに圧力をかけて選挙運動をしていますが、私は「絶対に負けられない選挙」だと思いました。

全国から、新婦人の仲間がデニーさんの応援に来ていました。写真は宿舎前で、毎日の早朝スタンディングをしているところ。午後からは宣伝で街頭へ。「沖縄戦を知っているから、子どもたちには平和を残したい。頑張ってくれ。本土からよく来てくれましたね」とおばあ、おじいやタクシードライバーが手を振ってくれました。

今回は知事選挙募金から旅費を頂きました。ご支援をありがとうございます。ありがとうございました。

「辺野古新基地NO!」「県民が心一つにして立ち上がる」と、翁長さんの遺志を引き継いだ玉城デニーさんが出馬。私は「あの、きれいな青い海を埋め立てるなんて許せない」「学校上空を米軍機が飛行するたび1日何十回も避難しなければいけない状況はひどすぎる」「平和な沖縄を取り戻そう」という思いで居ても立っても居られず沖縄へ、玉城デニーさんの応援に12日〜14日まで行ってきました。



相手候補は自民・公明・維新・希望の党が推し「対